

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiku/seiku-zyoho.html#suitou>

第 5 報
千葉県農林水産部
令和8年7月24日

4月20日植えの出穂期はおおむね平年並みです 高温が続く見込みのため刈り遅れに注意

[生育概況]

関東甲信地方は、平年より1日遅い7月20日に梅雨明けし、気温は、6月第1半旬～7月第2半旬は平年より低く推移しましたが、第3半旬からは平年を上回っています。

4月20日植え「ふさおとめ」の出穂期は7月10日、「ふさこがね」は7月12日、「コシヒカリ」は7月18日で、平年より1～2日遅いものの、おおむね平年並みです（前年より3～4日遅い）。5月1日植えの「コシヒカリ」は7月21日で、平年より1日早くなっています（前年より3日遅い）。葉色は「粒すけ」がやや淡く、その他の品種は平年並みです。

成熟期は4月20日植えの「ふさおとめ」が8月11日から、「ふさこがね」は8月16日から、「粒すけ」は8月23日頃から、「コシヒカリ」は8月24日頃からの見込みです。ただし、気象庁の1か月予報によれば、向こう1か月の気温が高い見込みのため、成熟期が早まる可能性があります。また、葉色の低下や水の不足は、さらに成熟期が早まる要因となるため、刈り遅れに注意しましょう。

表1 品種・植付時期別の成熟期の予測

品種	植付時期	成熟期予測			
		県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	8月16日	8月13日	8月11日	8月11日
ふさこがね	4月20日	8月21日	8月18日	8月16日	8月16日
コシヒカリ	4月20日	8月30日	8月27日	8月24日	8月24日
	5月1日	9月3日	9月1日	8月30日	8月30日
粒すけ	4月20日	8月27日	8月25日	8月23日	8月23日
アキヒカリ(飼料用米)	5月15日	9月3日	9月2日	8月31日	8月31日
夢あおば(飼料用米)	5月15日	9月16日	9月15日	9月13日	9月13日

※成熟期予測は、水稻作柄安定対策調査ほの調査結果と生育予測システムを基に、各品種の出穂期から成熟期の標準的な日数、気象条件等を加味して予測。

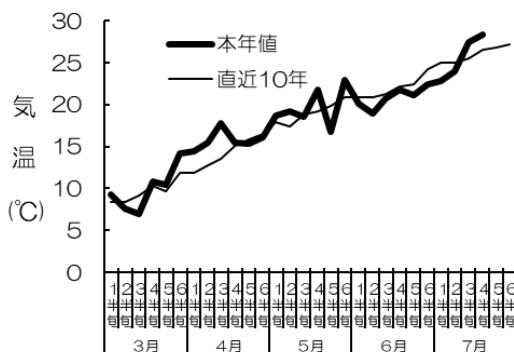


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

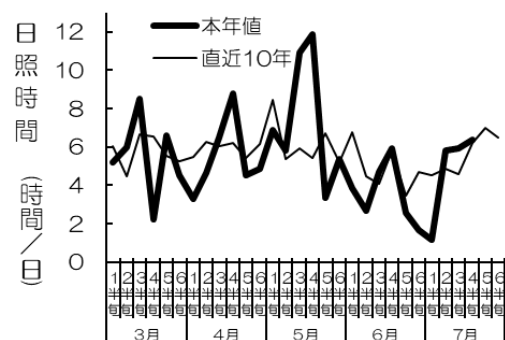


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ 病害虫・雑草防除

農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用しましょう。

農薬を散布する際には、農薬に定められた収穫前使用日数に注意し、周辺へ飛散しないよう、風向きに注意して農薬散布を行いましょう。また、近くに収穫時期が早くなることが見込まれるほ場がある場合は散布を控えましょう。

「令和8年版農作物病害虫雑草防除指針（付 植物成長調整剤 使用指針）」も参照してください（右の二次元バーコードからご覧ください）。



農作物病害虫雑草
防除指針 HP

○斑点米カメムシ類の防除

病害虫発生予報第4号（千葉県病害虫防除課：7月15日発表）によると、イネカメムシを含めた斑点米カメムシ類の予想発生量が「やや多」となっています。

防除適期は、イネカメムシが「出穂始め～出穂期」（不稔発生防止）と「出穂期から15日後頃」（斑点米被害防止）、大型斑点米カメムシ類が成虫飛来期の「穂揃期（出穂期3日後）」と幼虫発生盛期の「出穂期から15日後頃」です。

共同防除を実施した地域においても、散布後に侵入した成虫やふ化した幼虫による被害が発生する場合がありますので、カメムシ類の発生状況によっては、追加防除を行いましょう。

○いもち病・紋枯病の防除

同予報では、いもち病（穂いもち）の予想発生量が「並」となっていますが、止葉など上位葉に病斑、穂首や枝梗に枯れが見られる場合は、治療効果のある薬剤で防除しましょう。紋枯病の予想発生量は「やや多」であり、上位葉に進展するようなら防除します。

最新の病害虫の発生予察情報は、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課のHPをご覧ください（右の二次元バーコードからご覧ください）。



病害虫防除課 HP

■ 品質低下を防ぐ水管理

出穂期3週間前から出穂期2週間後までは湛水管理とします。出穂期25日後までは田面の湿潤を保つため間断かんがいを続けます。今年もかなりの高温が予想されています。登熟期の水不足は、乳白米等の白未熟粒の発生による品質低下の原因となります。そのため、落水は出穂期25日後以降とし、田面を固めコンバイン収穫に備えましょう。また、限られた農業用水を大切に使うため、漏水を防止し、かけ流しは止めましょう。

■ 適期収穫（良品質米の生産のため適期に収穫を）

早刈りは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。

出穂期から収穫適期までの日数の目安は「ふさおとめ」で33日、「ふさこがね」で37日、「コシヒカリ」「粒すけ」で38日（「粒すけ」5月中下旬植付は40日）ですが、高温が続くと成熟期が早まる可能性があります。正確な収穫適期は帯緑色籾歩合で判断しましょう。生育中庸な株の帯緑色籾歩合が15%（ただし、不稔籾を除く）の 때가収穫適期となります。（図3参照）

また、異品種の混入を防止するため、品種切り替え時は、コンバイン、乾燥機、籾すり機等を丁寧に清掃しましょう。

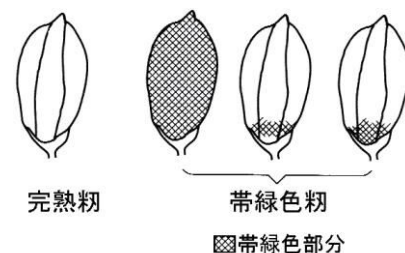


図3 帯緑色籾の見分け方
少しでも緑色の部分があれば、帯緑色籾として数えます。

■ 乾燥は丁寧に、仕上げ水分は適切に、選別は 1.8mm 以上

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は14.5～15.0%とします。

また、乾燥終了直後の籾の温度が高い状態で籾すりを行うと、肌ずれ米や胴割米が生じるので、十分に放冷し、温度を下げてから行いましょう。

外観品質を高めるため、選別は 1.8mm 以上の網目を使用しましょう。粒が小さい米の混入は玄米の粗タンパク質含有率を高め、食味を下げる要因になります。

■ 収穫後はすぐに耕うんを

収穫後は速やかに耕うんを行いましょう。秋耕には稲わらの腐熟を促進し、次年度の還元障害（ガス沸き）の発生を抑制する効果があります。また、二番穂はイノシシ等の餌になりますので、鳥獣害対策の観点からも重要です。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」には栽培管理の記録が不可欠です。出荷する際には、集荷団体から「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出を求められる場合があります。「生産履歴」を記帳することは、自己の経営の点検などにも重要な役割を果たすので、正確な記帳に努めましょう。

■ 飼料用米の収穫・乾燥・調製

○飼料用米の収穫適期

飼料用米の出穂期から収穫適期までの日数の目安は、「アキヒカリ」が40日、「夢あおば」が45日であり、帯緑色籾歩合は15～20%とします。

耐倒伏性に優れる「夢あおば」では、収穫適期以降、好天が続くと予想される場合は収穫を遅らせ、立毛の状態での乾燥を進め、乾燥機の燃料コストの低減を図りましょう。

○飼料用米の乾燥・調製

飼料用米は主食用米と農産物検査規格が異なります。異物の混入などがなければ、ふるい分けの必要もありません。また、食味及び外観品質を考慮する必要がないので、区分管理の場合は乾燥時の温度をやや高めに設定して乾燥効率を上げましょう。

令和8年度水稻の高温対策研修会

～「千葉県公式セミナーチャンネル」での動画配信のお知らせ～

- ・令和8年6月18日に開催した、令和8年度水稻の高温対策研修会の講演内容を、「千葉県公式セミナーチャンネル」にて動画配信します。
- ・視聴に当たっての申込は不要です。研修内容にご興味ある方は、ぜひご覧下さい！

配信期間

令和8年7月10日から令和9年3月31日まで

視聴方法

以下のURL又は二次元バーコードからアクセスして、御視聴ください。
動画説明文の講演タイトル右の時間をクリックすると、各発表講演に飛ぶことができます。

配信URL

<https://youtu.be/IZtEqz3OEGE>



↑二次元バーコード
はこちら

配信内容

【講演】～中干し後から収穫後までの栽培管理のポイント～

(1) 本年の水稻の生育状況について

生産振興課 水田農業対策室 技師 有馬 佳宣 氏

(2) 水稻の高温登熟障害の発生要因ごとの対策について

担い手支援課 専門普及指導室 上席普及指導員 小林 孝太郎 氏

(3) 近年の高温条件下における被覆肥料の溶出時期と水稻の生育・収量との関係

農林総合研究センター水稻・畑地園芸研究所水稻温暖化対策研究室
室長 平井 達也 氏

(4) 水稻の高温対策に係る肥料等の資材について

全国農業協同組合連合会千葉県本部

(5) 「イネカメムシ」に対する有効薬剤と防除適期

農林総合研究センター 病理昆虫研究室 上席研究員 清水 健 氏

(6) 収穫時におけるコンバインの適正な走行方法

環境農業推進課 肥料・農薬班 副主査 小野瀬 優哉 氏
山武農業事務所 改良普及課 普及指導員 玉理 温基 氏



【問合せ先】 千葉県農林水産部 担い手支援課 専門普及指導室

TEL : 043-223-2911 FAX : 043-201-2615

E-mail : ninaite04@mz.pref.chiba.lg.jp